

令和7年度（2025年度）公社等経営評価書

公益財団法人青森県暴力追放県民センター

公益法人等用

1 法人の概要

| 法 人 名 | 公益財団法人青森県暴力追放県民センター | 所管部課名 | 警察本部刑事部捜査第二課 |
|-----------------|-----------------------------------|---|--------------------|
| 代表者職氏名 | (職名) 理事長 (氏名) 小笠原 勝博 | 基 準 年 月 日 (基本情報に係る基準日) | 令和7年7月1日 |
| 所 在 地 | 〒 030-0801 青森市新町二丁目2-7 青森銀行新町ビル4階 | 設立年月日 | 平成4年4月23日 |
| H P アドレス | https://botui-ao.jp | 電 話 番 号 | 017-723-6250 |
| e-mailアドレス | botui-ao@minos.ocn.ne.jp | F A X 番 号 | 017-723-8931 |
| 資本金・基本金等 | | | 設立の目的・事業の目的 |
| 資本金・基本金等 | 715,000 千円 | 県民の暴力団追放意識と暴力団追放運動の高揚を図るとともに、暴力団の存在を許さない社会基盤を確立するための事業を行い、もって、暴力のない安全で住みよい青森県づくりに寄与することを目的として、平成4年4月23日に暴力団対策法に基づく暴力追放運動推進センターとして指定を受け設立されたものである。 | |
| (うち県の出資等額) | 581,050 千円 | | |
| (県の出資等比率) | 81.3 % | | |

主な出資者等の構成（出資等比率順位順）

| 氏 名 ・ 名 称 | 金額(千円) | 出資等比率(%) |
|-----------|---------|----------|
| 1 青森県 | 581,050 | 81.3 |
| 2 青森市 | 20,710 | 2.9 |
| 3 青森競輪場 | 20,000 | 2.8 |
| 4 八戸市 | 16,528 | 2.3 |
| 5 弘前市 | 12,783 | 1.8 |
| 6 | | |
| 7 | | |
| 8 | | |
| 9 | | |
| 10 | | |

経営目標

- 効果的な広報活動
新聞、テレビ、ラジオ等各種広報媒体を活用した広報を効果的に実施する。
暴力団の資金獲得活動が多様化・巧妙化していることから、暴力団情勢の変化に応じた情報を発信するほか、不当要求防止責任者の受講拡大に努めるとともに、暴力団の被害に遭わないための相談業務も効果的に推進する。
- 安定した事業資金の確保
基本財産は、国債等の債権購入で運用しているが、現状の債権利息は極めて低く不足分を賛助会員の会費に頼らざるを得ないため、引き続き賛助会員の新規加入の促進に努める。

主要事業の概要

| 主要事業 | 決算額(千円、%) | | | | | | 公益・収益等の別 | 補助金の有無 | 受託収入の有無 | 再委託の有無 | |
|---|------------------|----------|------------------|----------|------------------|----------|----------|--------|---------|--------|--|
| | 令和4年度 (2022年) | 割合 | 令和5年度 (2023年) | 割合 | 令和6年度 (2024年) | 割合 | | | | | |
| 事業1 | 11,680 | 48.30 % | 11,267 | 43.17 % | 13,165 | 42.04 % | 公益 | 無 | 無 | 無 | |
| (内容) 暴力団に関する相談活動、暴力団員等の組織離脱活動の推進、差止請求関係業務、少年への暴力団の影響を排除するための相談及び支援活動等 | | | | | | | | | | | |
| 事業2 | 2,965 | 12.26 % | 5,138 | 19.69 % | 7,057 | 22.53 % | 公益 | 無 | 無 | 無 | |
| (内容) 暴力団排除気運の醸成、暴力追放県民大会の開催、暴力追放作品コンクールの実施 | | | | | | | | | | | |
| 事業3 | 2,197 | 9.09 % | 2,205 | 8.45 % | 2,196 | 7.01 % | 公益 | 無 | 無 | 無 | |
| (内容) 暴力団対策法に基づく不当要求責任者講習の実施 | | | | | | | | | | | |
| 上記以外 | 7,340 | 30.35 % | 7,487 | 28.69 % | 8,901 | 28.42 % | 公益 | 無 | 無 | 無 | |
| 全事業 | 24,182 | 100.00 % | 26,097 | 100.00 % | 31,319 | 100.00 % | | | | | |

組織の状況

| 区分 | 令和5年度 (2023年) | | 令和6年度 (2024年) | | 令和7年度 (2025年) | | 前年度 増減 | 増減理由 | | | |
|----|------------------|-----|------------------|-----|------------------|-----|-----------|------|--|--|--|
| | 県派遣 | 県OB | 県派遣 | 県OB | 県派遣 | 県OB | | | | | |
| 役員 | 常勤 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | |
| | 非常勤 | 8 | 1 | 8 | 1 | 8 | | | | | |
| | 計 | 9 | 2 | 9 | 2 | 9 | | | | | |
| 職員 | 常勤 | 3 | 2 | 3 | 2 | 3 | | | | | |
| | 非常勤 | | | | | | | | | | |
| | 臨時職員 | | | | | | | | | | |
| | 計 | 3 | 2 | 3 | 2 | 3 | | | | | |

| 役員平均年齢 | 63 歳 | 職員平均年齢 | 60 歳 | 職員の 年代別構成 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代～ | 勤続年数(平均) |
|--------|----------|--------|----------|--------------|-----|-----|-----|-----|------|----------|
| 役員平均年収 | 4,536 千円 | 職員平均年収 | 4,100 千円 | | | | | | | |

※常勤役員のみ (ただし、職員平均年収及び勤続年数はプロパー職員分)

2 財務の状況

(単位：千円)

| 項目 | 令和4年度 (2022年) | 令和5年度 (2023年) | 令和6年度 (2024年) | 前年度増減 | 主な増減理由〔法人記入〕 |
|----------|-------------------------------------|------------------|------------------|---------|-----------------------------------|
| 収支等の状況 | 経常収益 | 25,698 | 33,074 | 31,975 | ▲ 1,099 |
| | 経常費用 | 24,182 | 26,097 | 31,319 | 5,222 広告宣伝費が大幅に増加した。 |
| | 当期経常増減額 | 1,516 | 6,977 | 656 | ▲ 6,321 収支相償が適正水準となったことから大幅に減少した。 |
| | 当期経常外増減額 | | | | |
| | 当期一般正味財産増減額 | 1,516 | 6,977 | 656 | ▲ 6,321 収支相償が適正水準となったことから大幅に減少した。 |
| | 一般正味財産期末残高 | 23,015 | 29,992 | 30,647 | 655 |
| | 借入金残高 | | | | |
| 資産 | 資産 | 746,177 | 801,227 | 776,547 | ▲ 24,680 |
| | 負債 | 8,162 | 9,667 | 9,052 | ▲ 615 |
| | 正味財産 | 738,015 | 791,560 | 767,495 | ▲ 24,065 |
| 県費等の受入状況 | 補助金 | | | | |
| | 事業費 | | | | |
| | 運営費（人件費含む） | | | | |
| | 受託事業収入 | 2,200 | 2,200 | 2,200 | |
| | 負担金 | | | | |
| | 交付金 | | | | |
| | 貸付金 | | | | |
| | 無利子借入金による利息軽減額 (長期フライムレートによる試算額) | | | | |
| | 減免額（土地・施設等使用料等） | | | | |
| | 債務保証残高 | | | | |
| | 損失補償残高 | | | | |

(単位：%)

| 財務分析指標 | 令和4年度 (2022年) | 令和5年度 (2023年) | 令和6年度 (2024年) | 前年度増減 | 主な増減理由〔法人記入〕 |
|--------|------------------|------------------|------------------|----------|---------------------------------------|
| 財務構造 | 正味財産比率 | 98.91 | 98.79 | 98.83 | 0.04 |
| | 経常比率 | 106.27 | 126.73 | 102.09 | ▲ 24.64 |
| | 総資産当期経常増減率 | 0.20 | 0.87 | 0.08 | ▲ 0.79 収支相償が適正水準となったことから大幅に減少した。 |
| | 県財政関与率 | 8.56 | 6.65 | 6.88 | 0.23 |
| | 補助金収入率 | | | | |
| | 受託等収入率 | 8.56 | 6.65 | 6.88 | 0.23 |
| 効率性 | 管理費比率 | 30.35 | 28.69 | 28.42 | ▲ 0.27 |
| | 人件費比率 | 44.39 | 41.92 | 40.52 | ▲ 1.40 |
| 財務健全性 | 流動比率 | 1,285.78 | 853.47 | 2,599.34 | 1,745.86 退職金等の未払費用が発生しなかったため、比率が高まった。 |
| | 借入金比率 | | | | |

3 経営評価結果等への対応状況

| これまでの経営評価結果等 (改善事項等) | 対応状況 〔法人記入〕 | 左に係る県所管部局の意見・評価 〔県所管部局記入〕 |
|-------------------------|--|--|
| 基本財産の効果的運用に係る取り組み状況について | 資産価値の維持を図ることはもちろんのこと、急激な物価上昇に耐えうる運営資金の確保が急務であることから資金運用規程を改正し、外貨建て外債を運用できるようにしたことで大幅な収益を得ることができ、将来に渡って安定した運営資金を確保することができた。 また、運用に当たっては、公益法人協会や証券会社、金融機関のアドバイスを受け、危機回避のための手段も講じている。 | 基本財政の運用は、公金による出捐等が行われていることを踏まえ、安全・確実な運用に努める必要がある。今後も運用銘柄の選定は専門家のアドバイスを受け、リスク分析等を行うなど、慎重かつ厳格に選定すること。 |
| 新規賛助会員の獲得に向けた取組状況について | コロナウィルス感染症等の影響により、年々賛助金収入が減少していたが、6年度は地道な賛助会員獲得活動により、約14万円の増収となった。 今後も市営バスのラッピング広告など創意工夫した募集活動を推進し、新規賛助会員の獲得に努める。 | 民間企業の支店統廃合施策が進んでおり情勢は厳しいが、創意工夫した募集活動を実施するほか、あらゆる行事において積極的に賛助会員の募集活動を実施して、賛助会員の増加、賛助金収入の増益となるように尽力すること。 |
| | | |

4 経営評価指標

(1) 法人自己評価

| 評価項目 | 対象指標 評点数 | 法人評価 | | (参考) | 自己評価【法人記入】 (経営概況、経営上の課題・対策、得点率の増減理由等) |
|----------|-------------|------|--------|--------|--|
| | | 評点数 | 得点率 | 前年度得点率 | |
| 目的適合性 | 16 | 16 | 100.00 | 100.00 | 暴追センターは暴力団の存在を許さない社会基盤を確立するための事業を行い、暴力のない安全で住みよい青森県づくりに寄与することを目的としている。また、公安委員会から認定を受けた適格団体でもあり、民間企業では代替不可能であるから、今後も目的達成のため、警察と連携して事業活動を推進する。 |
| 計画性 | 32 | 30 | 93.75 | 87.10 | 今後も引き続き積極的な広報をして、不当要求防止責任者講習の受講者数の増加や賛助会員の増加に努める。 暴力団情勢の変化に素早く対応できるように、今まで通り、全国暴力追放運動推進センターと緊密な連携を図って不断の見直しを心掛ける。 |
| 組織運営の健全性 | 34 | 33 | 97.06 | 97.06 | 規程に基づき内部監査を実施しているほか、定期的に税理士に会計検査を委託して不正がないようにチェックしている。 また、企業等から取引相手の暴力団関係の有無等に関する相談が増加し、個人情報の取扱件数が増加しているので、個人情報の取扱に注意して情報漏洩事案の絶無に務めている。 |
| 経営の効率性 | 26 | 25 | 96.15 | 88.00 | 基本財産運用は、専門的知識を有する者の助言に従って、効果的な運用をするとともに、資産運用による収入だけでなく、賛助会員獲得による賛助金増加も推進する。 |
| 財務状況の健全性 | 18 | 18 | 100.00 | 100.00 | 県からの財産支援は受けておらず、借入金もない。 国債、社債等の運用や、賛助金収入など自主財源が確保されている。 |
| 合 計 | 126 | 122 | 96.83 | 93.55 | |

(2) 県所管部局評価

| 評価項目 | 項目別評価 | | コメント【県所管部局記入】 |
|----------|-------|----------|---|
| 目的適合性 | ◎ | 対応等は良好 | 暴追センターは、一般市民に代わって暴力団事務所使用差止請求訴訟を提起できる適格団体であり唯一無二の存在である。 暴力団対策法の改正や暴力団情勢の変化に対応するため、警察や全国暴力追放運動推進センター等と積極的に意見交換を行うなど適正に業務が行われている。 今後も暴力団の存在を許さない社会基盤を確立するため各種事業を推進して貰いたい。 |
| 計画性 | ◎ | 対応等は良好 | 計画的に事業が行われている。 今後も創意工夫して責任者講習受講者数の向上や賛助会員獲得に努めて貰いたい。 |
| 組織運営の健全性 | ◎ | 対応等は良好 | 不正やミスが生じないように定期的に内部監査の実施や税理士の定期検査を受けており、外部監査においても一定の評価を得ている。 人材育成についても、全国暴力追放運動推進センター等が主催する研修でスキルアップを図っている。 暴追センターの設立時、青森県をはじめ各市町村から公金が出捐されていることを踏まえて健全な運営を務めて貰いたい。 |
| 経営の効率性 | ○ | 概ね対応等は良好 | これまでどおり経費削減の取組を推進して貰いたい。 基本財産の運用は、これまで通り、ハイリスクな運用を避けるなど大きな損失を生じないように心掛けて貰いたい。 |
| 財務状況の健全性 | ◎ | 対応等は良好 | 借入金が無く、自主財源の範囲内で事業活動をしているので健全性は良好である。 今後も全ての業務を持続的・安定的に行うため、経営基盤を強化し財務面での健全化を確保することに努めること。 |

5 総合評価（案）

| 総合評価 | | コメント【県所管部局記入】（改善事項等） |
|------|------|---|
| A | 概ね良好 | 経営状況は借入金が無く自主財源の範囲内で事業をしており安定しているので、引き続き、基本財産の効果的な運用と賛助会員の獲得に努めて貰いたい。 暴追センターは、暴力団の存在を許さない社会基盤を確立するための事業を推進しているほか、一般市民に代わって暴力団事務所使用差止請求訴訟を提起することができる適格団体であり、民間企業では代替不可能である。 よって、暴追センターの活動内容について広く県民や県内企業等に周知を図るため、今後も積極的な各種事業を推進することを期待する。 |